

2018年のホットなストレージ技術審査を採点する

これからの1年、ストレージのプロ達が市場の将来を見通して、何に注目すべきかを大胆に予測する。当たる時もあれば(誰にも言っちゃだめだよ)外れる年もある。2018年の予測は下表の通り。では、我々の選択したものをサクッと採点していこう。

成績	ストレージ技術	結果はいかに?
A+	ストレージ予測分析 (ストレージシステム管理用)	2017年のHPEによるNimble Storage買収と2018年のDataDirect NetworkによるTintriの資産取得の裏にあったのはこの技術だ。他の大手ストレージベンダーも全てリアルタイム分析製品を提供している。
A	ランサムウェア対策	想像してもらいたい。ランサムウェア攻撃からの復旧のお手伝いができる、必死にユーザーに伝えようとするデータ保護ベンダーがいるだろうか、また、この機能を要求しないビジネスがあるだろうか、と。
A	コンバージド セカンダリストレージ	新興のCohesityとRubrikによって数年前に始まったこの技術は世界中の大手データ保護ベンダーに広がった。今やだれもデータ保護としてバックアップとリカバリだけでは十分と思わなくなった。
B+	マルチクラウド (SDSの拡張を含む)	今ではほとんどのストレージベンダーが、マルチクラウド戦略を持っている。とはいえ、まだ誇大な宣伝が現実に行っている。なぜなら、まだ全てのパーツが揃っておらず、全てのユーザーが複数のクラウド上でデータを移動していないからだ。今のところは、まだ、とっておく。
B	NVMe-oF	これについては、我々はちょっとだけ早かったようだ。NVMe-oFは全速力で進んでいるが、NVMe自身の開発が完成するまでのペースが遅かった。とはいえ、2019年は間違いなく主流になる。

